

◆授業のポイント◆

- ・ 思考力を高め、よりよい表現への実践につながるような学習活動の工夫
- ・ 個々の生徒の思いや意図を、集団の中で表現できるような学習形態の工夫

# 音楽科学習指導案

学 級 1年5組（男子21名女子18名計39名）

場 所 第2音楽室（1年校舎4階）

授業者 教 諭 永 井 ひ ろ み

- 1 題材 情景と音楽との関わり [共通事項] リズム 旋律 強弱 音色 形式 構成  
教材 春 第1楽章（「和声と創意の試み」第1楽章「四季」から） ヴィヴァルディ作曲

## 2 題材について

### (1) 題材設定の理由

本題材は、学習指導要領「第1学年B鑑賞(1)ーア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」と「第1学年B鑑賞(1)ーイ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史やその芸術と関連付けて、鑑賞すること」に関する内容である。

「春」は、急－穏－急の3楽章構成による協奏曲である。A. ヴィヴァルディの協奏曲の大きな特徴は、独奏と合奏が交互に出てくるリトルネット形式で作られていることである。「春」はソネットがあるため、音楽から情景をイメージするおもしろさを感じることができる。

鑑賞の学習で身につけた力は、学校を出た後、長い人生の中で音楽と付き合うときに、必ず力として発揮すると思われる。鑑賞する力をつけるために、何を基に音楽を聴くべきなのかの指針として、[共通事項]を用い、音楽的な感受を仲間と共に自分の言葉で伝え合ったり深め合ったりするコミュニケーションつけさせる。そのことが、生活に音楽を生かしていける力と考える。

中学校に入って初めての鑑賞の学習なので、リズム、旋律、強弱、音色、形式、構成など、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚させ、ソネットとの関わり合いを意識して、楽曲の部分や全体を聴かせ、要素の働きが生み出す特質や雰囲気を感受させる。そして、自己のイメージや思いを他者に伝え合ったり、他者がどのようなことを意図しているかを考えて共感したりするためには要素を活用し、言葉で伝えることが有効であることに気付かせる。音楽を形づくっている要素を活用できる大切さを実感できるように配慮し、生徒が、意欲的に楽曲のよさや美しさを味わい、言葉で自分の思いや意図を表現する態度や能力を育てていくことをねらいとして本題材を設定した。

### (2) 生徒の実態（アンケート対象：1年5組 男子21名 女子18名 計39名 回答）

今回の学習に取り組むに当たって、事前調査を実施した。

- 1 音楽の授業で鑑賞するとき、どのようなことを気を付けて聴いているか。
- ・ リズムを感じて聴く 9名
  - ・ 曲の特徴や曲全体を感じて聴く 9名
  - ・ 速度 8名
  - ・ 曲の雰囲気を感じて聴く 6名
  - ・ 楽器が何かを聴く 4名
  - ・ 強弱の変化 4名
  - ・ 音の高さや低さを聴く 4名
  - ・ 曲を聴いて情景など想像する 3名
  - ・ 作者がどのような気持ちで作ったのか。 2名
  - ・ 曲の山の旋律を感じて聴く 2名
- 2 音楽を形づくっている要素を名前で知っているものはどれか。
- リズム39名（100%） 旋律36名（92%） 強弱37名（95%） 音色36名（92%）  
速度36名（92%） 形式9名（23%） 構成21名（54%）

- 3 音楽を形づくっている要素の意味で知っているものはどれか。  
 リズム35名(90%) 旋律19名(49%) 強弱35名(90%) 音色29名(74%)  
 速度33名(85%) 形式0名(0%) 構成3名(8%)
- 4 音楽の授業で鑑賞するとき、曲から感じ取ったことや曲から受けたイメージを発表したり、言葉や文章にまとめたりすることができるか。  
 まとめられる 7名(18%) 少しなら書ける 28名(72%) いいえ・やったことがない  
 4名(10%)
- 5 音楽の授業で鑑賞するとき、音楽を形づくっている要素同士の関わりを感じながら聴いているか。  
 はい 22名(56%) いいえ 17名(44%)

鑑賞の活動では、要素や要素同志の関連を知覚し、要素やそれらの働きによって生み出される曲想との関わりを感受することが重要であり、このような学習を積み重ねることで、音楽を主体的に聴き味わうことに繋がっていく。

アンケートの結果から、生徒は無意識に要素と関わらせて音楽を聴き、イメージや感情をもっていることがわかる。しかし、要素やそれらの働きによって生みだされる曲想として、認識して感じ取って聴いてはいない。音楽を形づくっている要素を理由として挙げながら、音楽のよさや美しさなどについて「言葉で説明する」ことが、音楽を自らの感性で確認し、主体的に音楽を味わう行為となる。

したがって、音楽の聴き方を知ることで、想像力を豊かにすることをねらいとし、音楽と情景の関わりを理解させ、加えて音楽の諸要素やそれらの働きによる曲想との関わりを言葉で説明できるようにさせたい。

### (3) 指導観

ア 音楽を鑑賞する際に、ソネットを手掛かりとしてその内容から情景をイメージさせ、またソネットに応じて曲想が変化する構成を理解させる。

イ 作曲者が情景を音楽で表現するために、リズムや旋律、強弱などに関わらせながら、どのような表現の工夫をしているかを理解させる。

ウ 弦楽器による合奏、独奏のそれぞれの響きと特徴を感じ取らせる。また、弦楽合奏の特徴を理解させる。

エ バロック時代の音楽を聴くことにより、反復や強弱による対比など、この時代の音楽の特徴や味わいを感じ取らせる。

## 3 題材の目標

- (1) 音楽を形づくっている要素のリズム、旋律、強弱、音色や形式、構成と曲想との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組むことができる。(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 音楽の諸要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚・感受したことと表現の工夫との関わりを感じ取って、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。(鑑賞の能力)

## 4 指導計画(全3時間)・〔単位時間における評価規準〕

時間	主な学習活動	単位時間における評価規準	
		ア 音楽への関心・意欲・態度	エ 鑑賞の能力
1	1 弦楽合奏の音色を感じ取りながら、それらの奏法の特徴を理解する。 2 楽曲の構成について理解する。 3 作曲者について知る。	・ 音楽を形づくっているリズム、旋律、強弱、音色や形式、構成と曲想との関わりに関心を持ち、主体的に取り組むことができる。	

2 (本時)	1 ソネットを手掛かりに、音楽から情景を想像する。 2 情景を表現するために、どのような表現の工夫をしているかを理解し、音楽を形づくっている要素と関わらせて、話し合いなどをして、言葉で表現する。		・ 音楽の諸要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚・感受したことと表現の工夫との関わりを感じ取って、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
3	1 「四季」の他の音楽を聴き、バロック時代の音楽の特徴を感じ取る。 2 音楽から想像したり感じ取ったりしたことを、その理由を含めて自分の言葉で書き、考えをまとめる。	・ 音楽を形づくっているリズム、旋律、強弱、音色や形式、構成と曲想との関わりに関心とモチ、主体的に言葉で表現することに取り組むことができる。	

## 5 到達目標問題

「春」第1楽章のすばらしさを、この曲を知らない人に伝えましょう。その人が音楽を想像しやすいように、リズム、旋律、強弱、音色、形式、構成の言葉を2つ以上使って伝えます。伝える内容は①音楽から想像し、感じ取ったこと ②その理由 ③自分が気に入ったところを入れましょう。

### 解答例

「春」第1楽章は、弦楽合奏で演奏していて、「小鳥が楽しんで歌い、春を歓迎する」部分では、ヴァイオリンが高い音で小鳥の声をまねたような旋律で弾くところが好きです。しばらく聴いていると、もう1本ヴァイオリンが重なって、小鳥が2羽飛んで歌っている様子が浮かびました。この曲は合奏と独奏が交互に演奏されるので、楽器本来の音色も聴けて楽しいです。

### 解答の根拠

「音楽から想像し、感じ取ったこと」「その理由」「自分が気に入ったところ」について、自分の考えを具体的に書き、その理由もリズム、旋律、強弱、音色、形式、構成の言葉の中から適切に使って述べている。

## 6 本時の実際(2/3)

- (1) 題材 情景と音楽との関わり — 「春」 第1楽章 ヴィヴァルディ作曲 —
- (2) 目標 表現の工夫から生み出される曲想やソネットとの関わりを聴き取ることができる。
- (3) 授業設計の工夫

ア 思考力を高め、よりよい表現への実践につながるような学習活動の工夫

研究の視点1

- ・ 音楽から情景を想像し、音楽的な感受から表現の工夫に気付かせる。
- ・ 音楽的な感受を音楽を形づくっている要素と関わらせて、感じ取らせる。

イ 個々の生徒の思いや意図を、集団の中で表現できるような学習形態の工夫 研究の視点 2

- ・ 楽曲から感じ取ったことや考えたことを自分の言葉で表現させる。
- ・ 他者の意見を聞き、その意見のよい点を認めたり、自分との共通点や相違点を述べたりして、話し合いを深めさせる。

(4) 展開

過程	時間 形態	主 な 学 習 活 動	○指導上の留意点 ※授業設計の工夫  ◎評価
導 入	5分 一斉	1 前時の学習内容を振り返り、ソネットの内容や弦楽合奏の特徴を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             情景を表すために、どのような表現の工夫がされているだろうか。           </div>	○ 前時の学習内容を確認させる。  ○ 本時の学習課題と学習の流れについて提示し、見通しをもたせる。
展 開	12分 個人	2 B・C のソネットから1つ選び、ソネットと音楽が一体となっている表現の工夫を、音楽を形づくっている要素を視点を聴き取る。	○ 表現の工夫により、音楽がソネットの内容を一層高めていると感じ取らせ、情景を細かく想像させてから表現の工夫を聴き取らせ、言葉で表現させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">研究の視点 1</div> ※ 表現の工夫に気付かせるために、要素を基にステップシートを工夫し、生徒に考えをまとめさせる時も要素を活用して説明できるようにさせる。  ◎ 音楽を形づくっている要素と関わらせて、自分の考えをまとめている。
開	18分 グループ	3 グループになり、自分が聴いた部分について、聴いていない友達にどうしてそう感じ取ったかを発表する。	○ 気付いたことを言葉で表現させ、どうしてそう思うかをまとめさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">研究の視点 2</div> ※ 他者の意見を聞き、まとめ方のよい点を認めたり、自分との共通点や相違点を述べたりして、話し合いを深めさせる。 ◎ 他者の意見から新たに気付いたことを要素を使ってまとめ、自分の考えを深めることができる。
終 末	10分 個人	4 楽曲の全体を聴き、ソネットD・Eを含む表現の工夫を聴き取り、味わい、自分なりにまとめる。	○ 表現の工夫により、音楽がソネットの内容を一層高めていることを味わわせる。  ◎ 音楽が詩を一層表現豊かにしていることに気付かせ、ヴィヴァルディの音楽性や表現力の豊かさを理解して聴こうとしている。
終 末	5分 個人	5 本時の振り返りをする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">             作曲者の音楽の表現の工夫を感じ取るためには、音色やリズム、旋律、強弱、形式、構成を理解して聴くことが大切である。           </div> 6 次時の予告を聞く。	○ 本時のまとめを次時に繋げる。